

湧別町立ゆうべつ学園



学園だより

令和8年2月27日
(第12号)
校長 若松 征一

重点教育目標「一步踏む出す心 自ら学ぶ 支え合う仲間」

～自分から 自分のために みんなのために～

「できていること」から始まる学校づくり

本校では、教職員アンケートや学校評価の結果、そして保護者の皆様から寄せられた声を大切に受け止めながら、来年度の学校づくりの方向性について検討してまいりました。

その中で改めて感じたのは、子どもたちの中に、すでに多くの確かな力が育っているということです。日々の生活の中で見られる成長は、学力の向上にとどまらず、「自分でできることが増えていく生活の自立」「人との関わりが広がる社会性の伸び」「自ら学ぼうとする姿」として表れています。子どもたちが一步一步前に進んでいる姿を、私たちもうれしい気持ちで見守っています。

来年度は、「できていないことを直す」という見方だけでなく、すでに育っているよさに目を向け、その力をさらに伸ばす学校づくりを進めていきます。授業やさまざまな教育活動で育まれる、「やり抜く力」「思いやり」「協力する心」など、これからの社会を生きていくうえで必要な資質・能力を、学校全体で支え、育ててまいります。

そして、「考えることを楽しみ、自分の思いを伝えられる子どもたち」の育成を、これからの大切な出発点として歩んでいきます。

今後とも保護者・地域の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

子どもを真ん中に、学び続ける

私たち教職員は、日々学び続けながら、子どもたちとともに成長していこうと努めています。至らぬ点から、保護者の皆様にご心配やご迷惑をおかけしてしまうこともあるかもしれませんが、こうした歩みの中で、子どもを真ん中に据え、学び続ける姿勢を大切にしながら、よりよい教育の実現に向けて歩みを重ねてまいります。

先日、研修を終えた初任段階の教員が校長室を訪れ、学びを自分の言葉で語ってくれました。そこには、自尊感情や自己有用感、多様性を大切にしながら授業をつくっていきたいという思いがありました。「子どもたちが安心して挑戦し、互いを認め合いながら成長していく」そんな教室の積み重ねが、学校全体の温かな学びの風土を育てていくのだと、あらためて感じさせられました。

今年度最後の授業参観を実施しました

2月9日(月)・10日(火)・13日(金)の3日間に分け、今年度最後の授業参観を実施しました。当日は多くの保護者の皆様にご来校いただき、子どもたちの学習の様子をご覧いただきました。参観後には、励ましのお言葉や温かなご感想をお寄せいただき、子どもたちにとって大きな自信と学習への意欲につながる有意義な機会となりました。



物語を音読する前期課程の児童たち



計算に取り組む前期課程の児童たち



写真立ての製作に取り組む前期課程の児童たち



グラデーションについて学ぶ後期課程の生徒たち

人命救助を体験

2月19日(木)、湧別出張所の消防署員の指導のもと、本校8年生が救命救急講習を受講しました。心肺蘇生法やAEDの使用方法など、身の回りに潜む危険への対応や人命救助の方法について、実技を通して実践的に学びました。万が一の場面で、落ち着いて行動する大切さも確認しました。



消防署員から胸骨圧迫法を学ぶ生徒たち



2人組で心配蘇生の方法を練習する生徒たち



AEDと胸骨圧迫の連携操作を学ぶ生徒たち

主体的に行われる児童生徒会活動の様子

2月24日(火)、児童生徒会執行部の運営による「なかよし集会」を実施しました。各委員会からの連絡や活動への参加の呼びかけを、ダンスや演奏などの工夫で分かりやすく発信しています。この日は、3月の「9年生を送る会」の募集も行いました。また、2月3日(火)には、保体委員会企画の「そりりレー」では異学年混合チームで交流し、仲間とのつながりを深めました。



なかよし集会の運営について話し合う執行部の児童生徒たち



なかよし集会を運営する執行部の児童生徒たち



漫才を演じながら9年生を送る会への参加を呼び掛ける執行部の生徒たち



保体委員会が企画した「そりりレー」の様子



前期課程と後期課程の児童生徒の混合チームを編成



異学年の交流を通して、仲間とのつながりを深める児童生徒たち

共同募金を社会福祉協議会へ

2月10日(火)児童生徒会執行部で取り組んだ赤い羽根共同募金を湧別町社会福祉協議会に手渡しました。皆様の温かいご協力に心より感謝申し上げます。



募金を手渡す執行部の児童生徒

3月の行事予定は

こちらから読み取れます。

